

■1 新たに展開する重要事項

1 創立370周年記念事業の推進

2009年度に龍谷大学は創立370周年を迎える。本学は、浄土真宗の精神を建学の精神とし、また「共生をめざすグローバル大学」を21世紀の龍谷大学像として掲げている。記念事業は、これらの理念に基づき「人間・科学・宗教」の視座をもって龍谷大学、龍谷大学親和会ならびに龍谷大学校友会の三者で「創立370周年記念事業委員会」を発足させ、協働して計画したものである。

記念事業の骨子は、「教育・研究・学生活動支援」、「施設設備の環境整備」、「積立金の設置」、「記念式典」及び事業資金に充当するための40億円を目標額とする募金事業であり、これらの諸事業は21世紀の龍谷大学像の実現につながるものであると確信し、鋭意推進する。

2008年度は、三者の連携をより密にし目標額の達成に向け、引き続き積極的な募金活動に取り組む。また、記念事業については、実施の前年度にあたることから、第4次長期計画の完遂に向けて「世界に誇る龍谷ミュージアムの設置」、「大宮キャンパスの新棟建設」、「記念式典・国際学術シンポジウム開催等の立案」等を推進する。2009年10月24日に創立370周年記念式典を行うこととしており、この時期を中心に国際学術シンポジウムや学生参加型の各種イベントの開催など、より具体的な計画を策定する。

2 学生支援体制の充実

学生生活に関する相談内容は年々複雑化・困難化するとともに、心理的な問題を抱える学生が増加傾向にあり、現行体制では対応が困難な状況になりつつある。

このような状況に対応するために、関連組織の再編を中心に学生の総合的なサポート体制を新たに構築する。具体的には、学生生活全般の相談を受け付けるために「何でも相談室」を学生部内に設置するとともに、心理面でのカウンセリングを専門的に行うために「こころの相談室」を保健管理センター(健康管理センターから名称変更)に設置する。

また、学生部と保健管理センター内の連携・協働を促進するために、深草学舎においては、4号館1階のスペース全域を総合学生支援フロアと位置づけ、紫英館から保健管理センターを移設する。瀬田学舎においては、1号館1階学生部内に「何でも相談室ブース」を設置するとともに、4号館地階に「心の相談室」の増設を行う。さらに、学生支援に係る関連部署との連携・協働をはかり、大学全体で学生を支援していくための体制を構築する。

3 龍谷ミュージアムの設置

創立370周年記念事業の一環として開設する「龍谷ミュージアム」は、本学が所蔵する仏教を中心とする学術資料や、本願寺が所蔵する貴重な法宝物を展示公開する機能と、総合大学としての教育・研究・社会貢献という機能を融合させ、広く社会に発信することを目指している。

本ミュージアムは、本願寺から借用する土地に、本学が建物を建築するものであるが、この度、より魅力あるミ

ュージアムとするため、従来借用することとなっていた本願寺会館に加え、本願寺同朋センターの敷地を新たに借用することとなった。このことにより、大規模の企画展示を行うスペースやより広い収蔵庫が確保できるようになった。更に、博物館に必要な専門知識を有する学芸員及びリサーチ・アシスタントを充実することとし、より魅力的なミュージアムへと展開させることとなった。また、開設時期は、2011年4月とすることとなった。

2008年度は、本ミュージアムで展開する諸事業の具体的な検討を重ねつつ、本願寺や近隣住民、京都市等との具体的な協議を進める。また、教育研究機関として位置づける本ミュージアムでの研究体制の確立を目指す。さらに、建物の基本設計及び詳細設計を実施し、工事着工までの準備を進める計画である。

4 理工学研究科博士後期課程(情報メディア学専攻・環境ソリューション工学専攻)の設置

理工学研究科では、2007年4月に修士課程を開設した情報メディア学専攻および環境ソリューション工学専攻に博士後期課程を設置するため届出を行う(2009年4月開設予定)。それぞれの教育研究上の理念・目的は次のとおり。

<情報メディア学専攻>

21世紀の課題である持続的循環型社会を実現するために、急速に発展する情報科学とダイナミックな展開をはかる技術革新の分野において高度な専門的知識を有し、多面的な様相を見せている課題を総合的に理解し、その課題解決を追求する能力をもつ人材の育成。

<環境ソリューション工学専攻>

現在、解決が求められている環境問題に関して、生態系を理解した上で工学的に問題に対応できる技術者、及び工学的な技術を修得し生態系の形成・保全に携わることができる技能者などの人材育成。

5 実践真宗学研究科(仮称)の設置

現代社会の諸問題に対して真宗・仏教がいかんにしてその使命を果たしうるかという課題に応えるため、より実践的な研究を展開するとともに、諸科学との学際的かつ総合的・融合的な研究を推進することを目指し、2009年度に実践真宗学研究科(仮称)を開設する。

2008年度には、同研究科が目指す宗教的実践者養成のための実習重視のカリキュラムを実現するべく、各分野における優秀な研究・教育の実績を持ち、かつ高度な実務経験のある教育・研究者の確保に努めるとともに、実習受入先の開拓を行う。

6 総合人間学部への設置についての検討

総合人間学部は、短期大学部を中心とした教学資源を有効に活用し、4年制学部として新たに展開するものである。本学部は、「人間」を多面的な視点から科学して学問を考究すべく、子ども教育学科、健康科学科、観光文化学科の3学

科から構成される学部として構想している。これらは、短期大学の既存教学資源を基に、保育、幼児教育、児童教育を包括した子どもの発達過程から人間を科学する視点、高齢化社会における健康増進やスポーツを科学的に捉えて人間を考察する視点、そして、千年を超える悠久の歴史を有する京都の地において、文化、地域社会、文化財といった人の文化的営みの観点から人間を科学するといったように、人間を総合的・多面的に捉えようとするものである。なお、本学部創設は創立370周年記念事業の一環として位置づけるものである。

7 教育環境の整備について

2008年度は、370周年記念事業の「施設設備の環境整備事業」の一環として、大宮学舎隣接地に新棟を2009年3月に竣工する。マルチメディア講義室、情報教育教室及び西域文化研究室、大蔵経学術用語研究室、仏典翻訳室を配置し、その他、談話室など学生のアメニティスペースを確保することにより大宮学舎の環境を整備する。また、大宮学舎の教育・研究施設の再整備・再配置を行い、より一層の環境整備に取り組む。

瀬田学舎では、多目的グラウンドの一部を改修するなど、課外活動施設の整備も同時に行う予定である。

また、2007年度に学生の合宿（短期・長期・留学生寮）及び校友会・親和会の交流や宿泊を目的とした施設を京都市内に取得することとなった。本施設は、学生のゼミナール合宿や課外活動の長期合宿施設、留学生寮としての使用及び、校友会・親和会会員が会員間の交流を図る宿泊施設としての利用を検討している。本年度は、使用用途について更なる検討を行い、改修工事を実施し使用を開始する。なお、本事業は、



大宮学舎新棟（清風館）完成予定図

校友会と親和会の支援を受けつつ、進めるものである。

8 龍谷大学付属平安中学校・平安高等学校の教育展開の充実について

本学は、建学の理念（浄土真宗の精神）に基づく、一貫教育の実現と教育連携のさらなる深化をめざし、平安中学校・高等学校を2008年4月より本学の付属校にする。

付属校では、これまで両校で培った教育連携の成果を踏まえ、高大接続の視点に立った新たな教育カリキュラムと課外教育プログラムをスタートさせる。さらに、高大教員が1つの科目を共同開発し、付属校生が3年次に受講する高大連携科目の授業を試験的実施し、他に類をみない特色ある高大連携の構築をめざす。また、高大連携が抱える今日的な課題を検討し、新たな高大連携の形を提言するため、6月に付属校開設記念シンポジウムを開催する。

9 教育連携校及び高大連携校の拡大について

大学全入時代と言われるなか、各大学は、既存高校と提携し、系列校化する動きが活発化している。このような中、本学は学生確保といった側面のみではなく、教育連携を中心とした高大連携を基本としている。本年度は教育連携校については、従来の崇徳高等学校、北陸高等学校に加え、新たに龍谷総合学園加盟校である神戸龍谷高等学校と提携を開始する。また、高大連携協定校については、京都・滋賀・大阪・奈良の13校（公立・私立）と提携を開始する。

10 ポスト4長の推進について

現在、本学では、2000年度から2009年度までの10年間にわたる第4次長期計画に取り組んでいる。本計画も終盤期に差し掛かり、今年度はこれに代わる次期計画について、具体的な構想を策定する。これまでは10年単位で大学の長期ビジョンを計画し、その実現に向けて取り組んできた。しかし、近年、大学に対する社会的要請も高度化・多様化し、高等教育をとりまく環境の変化も激しくなっている。したがって、ポスト4長においては、本学の使命とそれを果たしうる大学の将来像を定め、これを実現するための4年から5年程度の具体的実行計画を積み重ねることにより、社会の変化の動向にも柔軟に対応し得るものとして構想する。なお、本年度は本学の学内外における環境分析、現状把握に努め、これに基づき本構想のグランドデザインを策定する予定である。